仏法領

ぶっぽうりょう

第86号

発行：真宗大谷派
念信寺
〒824－0202
福岡県京都郡みやこ町犀川上高屋761
☎　0930-42-0329
Fax 0930-42-0502
ホームページ
nenshinji.org

念信寺納骨堂　阿弥陀如来像

阿弥陀様は前納骨堂の篠栗の仏師の作。

前納骨堂は昭和42年（1967年）に作られた。「故郷に納骨堂を建てよう」と趣意書にはある。鉄筋納骨堂は半永久的と考えられて山の中の墓から明るい場所にお骨が移された。清潔で掃除の手間がかからず、画期的なことだったに違いない。当時の建設委員には懐かしい名前があり、今はその子や孫の代になっている。入り口の上には「有縁立信」の額が掲げられていた。有縁の物故者の生き死にのご縁に遇ってこそ掌が合わされるのだろう。

「未来の私へ」

十年後の私は何をしているだろうか
娘たちは自立して
楽しく暮らしているだろうか
母は穏やかに暮らせているだろうか
私は何かをなし得ているだろうか

見えない未来を想いながら
今を大切に生きていく
未来のために

（大迫光浩　写真・文）

未来のあなたへ

あなたの眼差しはきっと遠くを見ていることだろう
しかしどうか故郷を忘れないで欲しい
故郷とはこの身体と心を育んだ環境
それはしっかりと生きた先人が作ってくれた場所
現在は過去によって形づくられたもの
未来はこの現在からしか決して開けない
あなたには素晴らしい贈り物が既に与えられていることを
忘れないで欲しい
それはあなた自身なのだから

（住　職）

ひと

今回も思い出に残るお同行さんたちを前坊守村上悦美に紹介してもらいます。

鐙畑地区のお同行たち

昭和四十年頃、鐙畑への大きな道路が出来、徐々に車も普及してきましたが、上高屋と鐙との行き来は十城峠越えの徒歩でした。当時の様子を郷土史『みやこ』（第六号）に綴り、『野仏のたわごと』（西日本新聞社、渡辺一樹著）にも紹介していただきました。

お寺へのお詣りは同行さん達が賑やかに連れのうて来られ、法の座についておられました。そのお姿が忘れられません。代替わりしましたが土徳は染みついており、次世代の方々が御正忌前の境内の清掃奉仕に精を出して下さいました。色々のご縁がありまして、各戸に前住職がお念仏の掛け軸を贈りました。その御礼に記念の灯籠が建立されました。

時代は移ろいますが、一人ひとりに遺されてある尊い光が今も包んで下さっています。

以下は、平成十八年に郷土史に載せた詩です。

記念の灯籠

一、袖や菊の　香の滲む
　法の水の　流る郷
　サラシナショウマ　無垢の白
　鐙思うて　清々し

二、五十年前の　ご法事は
　住職法衣を　斜にかけ
　しりからげして　峰伝う
　杖を頼りの　山路なり

三、法事ののちは　お名残と
　見送る十城　峠にて
　わらじをはけと　酒すすむ
　両手に余る　ナラジャワン

四、一杯だけは　片わらじ
　一足のみは　破る故
　もう一足と　ほださるる

五、思えば雪の　積むもあり
　夏は小川に　汗ぬぐい
　山路の色の　身に染みて
　まみえし人の　こころばえ

六、お寺詣りの　お同行
　誘い合わせて　連れのうて
　真木野の郷の　牧野家で
　お茶をよばるる　行き帰り

七、還浄されし　釋、釋尼
　まなうらにある　あゝ和顔
　山の暮らしに　身を砕き
　上り下りの　いばら道

八、仏の教え　縦糸に
　日々の生活を　横糸に
　心豊かな　日暮らしの
　無量無辺の　縁の中

九、雲の棚引く　山間の
　楽音寺さんの　法座には
　村中こぞり　法を聞く
　土徳ます　善男女

十、谷戸の同行　たおやかに
　辛抱強く　身を粉にし
　自然の内に　包まれて
　深き人世の　鐙畑

これからの時代に望むこと

吉田昭和（北九州市小倉北区）

昨年から、身近な人の訃報に接する機会が増えた気がする。私も相応の歳になったのかも知れない。最近終活・断捨離と言う言葉が聞こえており、私も「そろそろか？」と思っている。私は「団塊の世代」である。

私の子供の頃は日本全体が今の様に豊かでなく、貧しい時代であった。私は両親のお陰で不自由を感じない生活であったと思っている。今も、子供たちと孫に恵まれ、老後を楽しんでいる。この様に私の人生は恵まれたものであったと、多くの人たちに感謝している。

最近、世の中は、コロナ、地震、風水害と多くの人々が災難に見舞われている。何度となく被災される方も多いと聞く。復興の努力をされている方々の心中は、如何ばかりかと思う。

自然の前では残念ながら、人類は無力と思わざるを得ない。

コロナは何とか人の力で抑え込もうとしているが、地震・風水害への対応に多くの研究者達が取り組んでいるが、まだ、被災防止策は出来ていない。私たちの時代は、高度成長期で、自然への配慮等不足し、その結果が最近の自然災害の引き金になったのではないだろうか？

子供、孫達の様な若い世代が、これからの人生で、自然災害に少しでも苦しむ事が無い様な時代になって欲しいと願っている

お参りの日々

念信寺衆徒　村上　宣（とおる）

秋も深く、北海道は気温が下がり寒くなってきました。福岡はどうでしょうか？

気づけば、北海道暮らしも半年が経ちました。京都でも、4年間暮らしていたので、今更ホームシックになることもありませんが、ワクチンを接種して副作用で2日間、熱にうなされた際は、家に人がいる「ありがたさ」を実感しました。

今回、住職に「将来・未来について書け」と言われた時、「何を書けばいいか、私が何を書きたいのか」が分からずにいたのですが、それは漠然とした不安感が将来にあるからだと今は感じています。

何をどうだと具体的に言葉にするつもりはありませんが、誰もが感じるものであると思います。将来どうするか。まだわかりませんが、不安が解消できるよう考えていけたらなと思っています。

本人なりの悩みがあるようです。笑。人間は不安があるからこそ行動する。いいことでないかと思います。（住職）

コロナが過ぎて、未来は？

吉富町　阿部正紀

猖獗をきわめた新型コロナが漸く下火になって来ました。十一月四日のコロナ感染者数、全国で一五八人、福岡県では九人。感染ピーク時の八月二十日には全国で二万千人、福岡県で八月十八日に一、二五〇人もの感染者が出たのに、もう殆ど無くなったかと思われる数字です。

ところが、安心するのはまだ早い、油断するとまた感染増加するものだそうです。

寺報は、いつまでもコロナに気を奪われている訳に行かないだろうから、少し話題を変えてみよう。

コロナが終わったとしてその後はどうなるだろうか。未来を予測することは誰も出来ないことです。我々も出来ません。昔から言うでしょう、「神のみぞ知る」と。神様・仏様は人間の未来のことは全て判っていますが、人間は未来のことがどうなっているかは判らないものです。

しかしながら、未来がこうあって欲しいと希うことは誰にでも出来るのです。

どんな未来を希うのか。まず、自分の健康かな、次いで自分の家庭・家族の健康か、更に地域・社会の人々が元気で、楽しく過ごしているかどうか、かな？

俺は、健康などはどうでもいい。俺が欲しいのはお金である、お金が無ければ何も出来ないではないか、という人もいるでしょう。更に、俺はお金も健康もどうだっていい、ただボーとしていて何ものにも拘束されないのが一番という人もいるでしょう。

こんな具合で、人は未来・将来のことについては誰からも拘束されることなく、自由に想像してよいのです。これがあるから人生は楽しいと言えるのかもしれません。

紘ちゃんの独り言

米価の下落に思う

添田町　尾形紘光（ひろみつ）

天は蒼々、野は茫茫（秋の空は青々とし、収穫の終わった大地は広々としている）。今年の稲の収穫も終わり何かとほっとしている昨今だが、のんびりとはしていられない米価の状況である。

田川農協の３年産の概算価格が、昨年に比べて千円以上のダウンとなっている。米価は民間の在庫量１８０万トンを目安として、増えると価格が下がり、減ると価格が上がると言われている。２年産米の在庫量が２２０万トンを越えているそうで、来年はそれ以上に増えると予想されている。

原因はコロナ禍による外食産業の落ち込みと人口減少、高齢化などで毎年８万トンから10万トンの需要減になっており大幅な在庫増となっている。特に東北や北海道の大生産地での価格の落ち込みが激しいようだ。

私の住む添田町では、近年の温暖化に伴い登熟期の高温障害により、白濁米等の増加が顕著である。品質で一等米が全体の２％しかなく98％が２等米で、これも大きな収入減となっている。

今、半農半Ｘ（小さな農業で必要な分の食を得て必要な物だけを満たす小さな暮らし）が言われていますが、農地の大半を維持管理しているのは、営農組織や専業農家である。将来に渡って農業、農地を維持していくためには米の需給と価格の安定が必要である。今回の衆議院選挙では米政策についてどの党もあまり語られてはいなかったが与党には早急な検証と対策を期待したいところだ。

秋彼岸法要のレポート

日時　令和３年10月２（土）、３（日）日
　　午後１時半より
講師　住職　瓜生　崇
　　先生

法話の要旨

【初日】

人は死んでゆくのにどうして一生懸命に生きるのか。

父は大手企業の重役だったが、最後につまらない人生だったと言って死んでいった。

【二日目】

「観無量寿経」で、韋提希夫人は子どもから牢獄に閉じ込められ、憂いのない世界を求める。お釈迦様に愚痴を言いつのり、人格が破綻して泣き崩れる姿が実は礼拝していることだ。美しく表面を飾るのが礼拝ではない。

住職の感想

今回も多くの方がお参りして下さいました。この講師はお寺関係の方が多く聴聞に来られます。仏法は間隔を開けずに聴聞するのが本来ですが、法座が年４回の機会しかないというのが、念信寺の課題です。

御正忌・報恩講ご案内

皆様には、時下ますますご清祥のことと存じます。はや、年の瀬も近くなり、報恩講の季節になりました。報恩講は親鸞聖人のご命日をご縁とする法座で、真宗門徒が最も大切にしてきた法要です。

コロナ禍を配慮して左記の日程で厳修させていただきますので、ご参詣聴聞くださいますようご案内申し上げます。

記

●日時　十一月二十一～二十三日

日時	午後一時半～	地区のお参り予定
二十一日（日）	法話　二席	上高屋地区・その他※
二十二日（月）	ご伝鈔・法話	城井谷地区・その他※
二十三日（火）勤労感謝の日	登高座・法話	犀川谷地区・その他※

※その他とは、豊津・築上・行橋・苅田・田川・北九州等です。

●講師

吉元　信暁　先生　二十一日
九州大谷短期大学　教授

三明　智彰　先生　二十二日
九州大谷短期大学　学長

中西　無量　先生　二十三日
田川市　西岸寺住職　四日市別院輪番

コロナ対策として

- ●マスクの着用をお願いします。
- ●お茶は各自ご持参ください。
- ●法座は午後のみ、お斎はありません。
- ●出来れば地区指定の日にお参りください。
- ●本堂の椅子は余裕をもって配置し、換気に努めます。
- ●体調の不安がある場合はご遠慮ください。

二〇二一年十一月　　みやこ町犀川上高屋
妙見山　念信寺

来年の法座予定

二〇二二年

念信寺

●春彼岸法要
四月二（土）、三（日）日
講師　北嶋文雄　師
（筑前町・光蓮寺）

●皆作永代経彼岸法要
六月末
講師　未定

●秋彼岸法要
十月四（火）、五（水）日
講師　瓜生　崇　師
（滋賀・東近江市玄照寺）

●ご正忌・報恩講
十一月二十一～
講師　未定

お寺の催し・活動

10／15京都祖女性門徒の会（婦人会）於善徳寺

10/19京都祖門徒会　於善徳寺

行事予定

●四日市別院　団体参拝
12月15日（水）午前10時半よりバス団体参拝
参加費四千円（お斎代含む）申込　12月1日までに
※12月13日午後のお参りは別に申込必要です。

納骨堂のお骨は本堂余間に厳重に保管。ご安心下さい。

11／9　二十八日講会議　於浄真寺

10/25京都組臨時組会　於真念寺

あとがき

今回はコロナ後を考える「将来」がテーマです。昨年の御正忌82号もコロナ後の生活がテーマでしたが、残念ながら収束していません。しかし、はっきりとしてきたことがあります。

未来はこの身を受けた自らが開くものだということです。時間とは、外側に客観的時間があるのでなく、人間の生きる場に開かれるものだというのが、最新の哲学的な議論のようです。仏教では往生といいます。怠け者の私は流転を繰り返すばかりで、開けそうもありませんが。笑

例年だとご正忌の準備のための準備で何かと慌ただしい時期ですが、コロナ禍で一連の行事が簡略化されるため比較的静かです。

しかし、いつもの事ですが、この寺報編集に追われる住職は、見ていてヒリヒリするような時間を過ごしています。横にいる者はドキドキして痩せる思いです。この流れを毎回繰り返しています。